

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和2年度第2回高松市伝統的ものづくり振興審議会
開催日時	令和2年8月20日(木)午後2時00分～3時35分
開催場所	四番丁スクエア 1階会議室
議 題	(1) 令和元年度高松市伝統的ものづくり振興事業補助金 成果発表 (2) 令和3年度高松市伝統的ものづくり振興事業(案) (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	公開
出席委員	5 人 本多委員、谷委員、穴吹委員、井藤委員、英委員
傍 聴 者	0 人 (定員 2 人)
担当課および連絡先	産業振興課 創造産業係 839-2411

### 審議経過及び審議結果

(事務局)  
高松市伝統的ものづくり振興審議会規則第3条第2項の規定により、  
会議成立の報告。

議題(1) 令和元年度高松市伝統的ものづくり振興事業補助金成果発表

**【ブランド力向上事業】**

「建築材料およびインテリアとしての漆パネル」製作プロジェクト

～採択者より報告～

(委員)

事業を実施して、また、展示会に出展しての結果はどうか。また、  
今後の展開として、海外向けもよいのではないか。

(採択者1)

2、3社と話は展示会後にあった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で商談はすべて流れてしまったという現状にある。建材として活かす可能性とともに、技術面の高さ、表現の方法に対して凄く興味は持っていただけ、こういう技術が香川県にあるということを知っていただいたという点については非常によかった。

また、オブジェとかパネルだとかの芸術作品的なものの方が海外に受け入れられやすいと感じている。

**【販路開拓事業】ホームページ及びカタログのリニューアル**

～採択者より報告～

(委員)

ホームページにカート作成後、成果はどうか。

## 審議経過および審議結果

(採択者 2)

カートの中の雑貨に対して発注は来ていないが、ホームページを見てもらって、そこから個人のお客様で新規に建具をしたいというお客様が増えて、「何を見て依頼いただいたんですか」というと「ホームページ」と言ってくれる方もいらっしゃる。

(委員)

補助金を使っただけの感想を教えてください。

(採択者 2)

伝統工芸を世の中にもう少し広げていきたいとなると、一事業者の力では難しいので、行政に力添えを貰って、こうしたい、ああしたいと思うことにチャレンジできてよかった。

【販路開拓事業】 石工技術を用いた生活用品（※）の新規展開事業  
※コーヒードリップスタンドやキッチンツール等

～採択者より報告～

(委員)

雑誌にて紹介をされていたが、顧客からの反応はどうか。

(採択者 3)

雑誌を見た方からの反応はまだない。新型コロナウイルス感染症拡大のため、予定していたイベントの出店、営業、PR 活動等をできなかったが、まずは PR 活動に重きを置いて今後活動をしていきたい。

議題（2）令和3年度高松市伝統的ものづくり振興事業（案）

～事務局より説明～

【伝統的ものづくり振興事業補助金について】

(委員)

今回の成果発表を踏まえると、HP の製作については、専門知識がある人のバックアップが必要ではないか。

また、この補助金を活用して、何かすごいとか売れたといった、市にとって何かリターンが欲しい。

(委員)

パンフレットや HP だけを作って終わりみたいなケースが目立つので、もう少し、この補助金制度から生まれてきた、売れるような、伝統的ものづくりを、もう少し支えるようなヒット商品が出てくるといいなと思っている。

組合とかに入っていない方に、もう少しうまくアピールして、ぜひ活用いただければいい。

(委員)

事業者が事業性のあるものを考えているのであれば、もっと補助率や補助額が高い補助制度を利用するので、この補助金を利用する理由付けをもっと考えないといけない。採択率が高いとか、返礼品として利用など、選定されたときの魅力度を高めることも大事だが、せめて補助率だけでも 3

分の2に引き上げれば同じ土俵に立てると思う。

(委員)

補助率は2分の1でよいと思う。結局、自分たちの努力で満額払うのが当たり前な話で、自助努力っていうのがなくなる気がする。ほとんど成果が出ていない状況が問題であって、補助するからには例えば軌道修正も含め、成果がどうにか出る方向性、別の方法を本当は模索しなきゃいけない。そこをジャッジできていないことも問題と思う。

また、産業発展事業補助金についても、産地に対して補助を出しているが、今までの国や県の産地組合に対する補助金などを見ていると、きちんと成果が出ているのか疑問で、事業者も補助金に頼らず自助努力する意識を持ってもらうことも大切と思う。

(委員)

補助金プラスそのサポートの部分をセットでできて、より具体的に補助金を活用する人達が前向きになれる、あるいは、販路が拡大できる、あるいは、そのPRをしても具体的な成果が得られるという感じで、何かそういった制度を考えられないのか。

(事務局)

補助制度を利用してもらうことにより、産地全体の盛り上がりや、市の伝統的工芸の盛り上がりにつなげていきたい。補助率や補助限度額の引き上げは、そういった機運が高まっている段階でなければ、難しいと考えており、まずは、様々なPRにより魅力を発信し、応募件数の増加から始めていきたい。

【その他事業案について】

(委員)

親子体験教室の案内リーフレットの学校配布はしないことになったと思うが、学校配布の方が皆さんに見てもらえるのではないのか。

(委員)

学校配布は相当パンチのある広報ツールだと思う。

(事務局)

リーフレットの学校配布はなくなったが、市の情報発信も「マチマチ」を利用するなどウェブに移行しており、今後は、ウェブでイベントを検索してもらえ方向に移していきたい。

(委員)

新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、何かアイデアや考えはあるか。

(事務局)

現在、コロナ禍にあっても事業を進められており、特段、新型コロナウイルスに対応する新しい事業や考えはないが、状況を見ながら対応していく必要はあると考えている。

議題(3) その他

オブザーバーの皆様より御意見等をいただく。